総会発言から

長野の高齢者協同組合「始動３ヶ月」

安井　雄（長野県／長野県高齢者協同組合常務理事）

連休中の５月４日。早朝から丸太橋を掛ける人、竹やぶを切り開く人、道をつくる人。総勢24人が長野市の西北、裾花渓谷に集合して、90歳の永井正隆さんのキウイ畑を引き継いで整備しました。長野県高齢者協同組合の「事業」と「協同作業」の開始です。

３月24日に組合を設立したばかりで、まだ参加者は少ないのですが、みんなの意気は高く、朗らかです。「明るく、楽しく、無理なく」をモットーに、協同作業は養鶏場の建設、環境美化、バザー、大豆の栽培などへの展開しています。以下は、組合員みんなの「知恵」と「参加」を基本にした「事業と組織づくり３カ月」の報告です。

農林畜産事業

１、「環境リサイクル養鶏」～長野県下で高齢化率が最も高く過疎の大岡村。用地は村の組合員、塩入幸久さんから提供していただいた水田です。ここへ生ゴミ、残飯を各種施設から回収、醗酵飼料にして平飼い（放し飼い）の鶏に与え、良質の自然卵を生ませて販売する一方、鶏糞は有機農法に活かします。ゲージ養鶏の廃鶏再生もできれば、カシワ肉用の供給もできます。

鶏舎の建設用材は、長野市森林組合の好意により、110本の杉を組合員ら延べ100人が間伐・切断・運搬し、皮むきや柱の穴掘り作業もしました。７月５日には、マドリッド労協の訪日研修員、アナ・ヒルサンズさんも訪れて、雨中の建設工事を見学、交流しました。

飼料用の生ゴミの調達や卵の販売は、県下の生協など協同組合間の協同事業にしようと話し合いをしています。

２、「長野市森林組合との提携事業」～鶏舎用材の間伐をする過程で、高齢協の作業ぶりが評価され「森林組合の山の間伐などもしてほしい」等の申し出がありました。さっそく「チェーンソー講習会」も受け、組合員ら14人が『特別教育終了証』を無料で交付されました。間伐にとどまらず、リンゴの木の伐採や環境美化、シイタケの包装もしています。

３、「大豆などの栽培」～長野市の北隣り、豊野町の80歳の農家から「もう米づくりはやめるので、水田を使って」と申し出があり「健康食品」の豆腐や納豆用の大豆を栽培することにしました。

「遊休農地」は農業を取り巻く厳しい状況もあり、増えていく傾向です。安全な食料の安定供給という観点から、活用に取り組みたいと思います。

なおキウイ畑はその後、畑を覆う竹切り、剪定

・草取り、周辺での竹の子採り（「七夕バザー」で販売）などもしています。

健康・福祉事業

1、「介護センターながの」のヘルプ事業～5月の連休明けから、長野市で左半身麻痺のお婆ちゃんの介護・家事援助を開始しました。介護コーディネーターの永井美子さんは「まごころ込めて、援助させていただきます」と2人目、3人目の希望者にも話しています。今後、ヘルパーの養成も急がねばなりません。まず中信センターの事業として松本で、ついで長野で2回目を開講する予定です。

また高齢者を中心に「安心弁当」の配食を昼と夕方の2回、合計20数食届けています。この弁当は長野中高年雇用福祉事業団の安全食品店「ころぽっくる」が、届け先の人の顔を目に浮かべながら心を込めてつくり、大変好評です。

2、健康保養事業～上田市の南隣り、丸子町には鹿教湯(かけゆ)温泉と各種の保養施設があり、中心街にはリハビリテーション鹿教湯病院があります。これを核にして「健康チェックと保養」「史跡名勝の探訪」を組み合わせて4泊5日、または長期滞在型で来ていただこう、というもの。理事長代行の市川英彦院長が中心になって計画をまとめました。

10月下旬はここで「全国高齢協交流会」も予定されているなど、広く仲間の交流もめざしています。

福祉住宅・リフォーム事業

静岡県在住の組合員から「来年秋に信州へ移り住みたいので、家を建ててもらえないか」との電話が飛び込み、すぐ住宅専門の理事と相談。依頼主と打合せて設計、年内に着工の運びです。

これをきっかけに、担当理事らが「福祉住宅・リフォーム事業計画」を練り、7月下旬の理事会に図る予定です。目的は「高齢者・障害者対応の住宅を、優しさと思いやりをもって新築、増改築、改造、修理修繕等の設計・管理・工事を推進する」。置き去りにされてきたこの分野を、高齢協の力で切り開こうというものです。

出版事業

高齢協をより深く理解していただくために、第1作の『健やかに輝く人生を～高齢者と若い人の協同で』を8月中に出版する予定。若月俊一佐久総合病院総長、市川英彦リハビリテーションセンター鹿教湯病院院長、武居洋琉球大学教授が、高齢協の意義と役割りをやさしく説いた講演記録。これに「長野県高齢者協同組合の船出」（事業始めの写真記録）も加えます。

ついで高齢者の「人生経験やさまざまな成果」をまとめていただき、若い世代に伝える「高齢者文化」を創っていきたいと思います。

旅行事業

長野県の最南端、飯田下伊那で今年秋を目途にセンターづくりを進めている仲間たちは、「託老所」や「南信濃への旅」などの事業を計画しました。10月には「歴史と福祉の里～天竜川沿道を訪ねて」を1泊2日で実施、全県の仲間と交流する予定です。

このほか、沖縄県高齢協から提案のあった「長期滞在型」の相互訪問旅行や、全国の仲間との交流旅行も計画しています。

バザー

高齢協を市民に知ってもらいながら、資金づくりと組合加入促進を進めようと、7月7日に長野市西部で「七夕バザー」と銘打って第1回を開催。

目玉は自然食品、リサイクル用品と健康テスト・相談コーナー。今後も各地区ごとに開く予定です。この準備・実施には女性の組合員が大いに積極性を発揮しました。

最後に「**長野の高齢協づくりの特色と課題**」を列挙します。

1、高齢協の「母体」～長野中高年事業団、長野県協同組合懇談会と日本労協連合会の支援は、自立までの大きな支えです。▽立ち上げ資金・事務所の貸与▽設備器具などの便宜供与▽専従職員の出向▽「介護センターながの」の事前準備▽給食弁当の製造・卸し▽「任意団体」の高齢協では不可能な業務への援助▽事業展開と組織づくりへの各種支援協力などです。

2、ボランティアの広がり～設立準備の段階から、高齢協の目的をよく理解した自発的な参加者が増え、現在は30人を超えています。今後、この人たちに「報える事業」が課題です。

3、事務局・事業専従者の確保～現在は半専従を含めて、専務理事1人、常務理事3人、事務局長1人、事業職員2人、会計担当1人の合計8人。専従者の確保は、各センターづくりと事業発展のポイントです。

4、自分の技能、経験を事業に活かして～「高齢協は人生経験・特技・技能・趣味の大集団」。そのネットワークを造り、活かし、広げることが課題。事業を進めながら、その輪が出来始めています。

5、地域に応じた「独自の事業おこし」と「センターづくり」～県下では、長野市周辺の北信センターが先行していますが、中信、東信、南信も独自に事業を計画中で、秋には勢ぞろいする予定です。これを核に「支部」や「班」、その「寄り場」づくりを進めます。

6、当面のポイントは資金づくり～事業体である限り「資金問題」の解決が最大の課題。「事業収益を生み出す」ことは大前提ですが、「自己資金の確保」が当面の目標。このため「組織拡大」と両輪で、7～9月を「組合加入促進期間」とし、寄付や増資も募ります。

7、広報宣伝の有力手段として、事業開始を記録したビデオ『高齢者の協同で、輝く人生を』を制作しました。これは長野県出版編集センターと、長野フジカラーの協力で実現し、とても好評です。

総会アンケートから

【竹腰英樹】　埼玉県

特に印象的だったのは、長野の高齢者協同組合の取り組みでした。地元の特色を生かした仕事づくり、各組織とのネットワークなど「長野に根ざした」取り組みをされているなと思いました。高齢社会の問題がクローズアップされていますが、高齢者協同組合を発足させ、広げるとともに、年金者組合、生協などの組織ともタイアップすることが大切だと思います。

総会の成立状況がぎりぎりなので参加促進とともに委任状提出アップも必要と思います。

【高市笙人】　東京都

長野県高齢者協同組合の話は、なかなか良くまとめて上手に話されていた。この様な会合の中で、実践面の話が出てくるのもにも大変興味をもった。

総会は時間がないとの名目ではしょっていたが、全体的に議題が多いのではと感じた。もう少し議題を減らし、一つ一つの議題を突っ込んだ討議ができるようにしたらと思った。